



## 私たちのハンセイキ (反省記・半生記)



壇上に現在各界で活躍中の5人の女性（昭58年卒）が登場。家に帰れば「家庭の主婦」という顔も持ちながら、男性と肩を並べて仕事をしてきた彼女たちの話を、興味深く聞いた。時間があっという間に過ぎてしまい、もっともっと聞きたいことがあったような感じだった。結婚こそが女の幸せ、という時代はもう終わってしまったのか……。

これまで卒業生の中で活躍されている男性の方の講演会がほとんどで、女性にスポットを当てて何人かでディスカッションをするという試みは初めてだったので、とても新鮮だった。



大塚（田中）千裕さん  
薬剤師

証券会社勤務の方以外は皆、専門職の方だったので、仕事で男性との違いを感じることはほとんどなかったような印象であった。あるいは、あったとしても、彼女たちは上手にそれを乗り越えて来たのかも知れない。女性が幸せになるには、資格を持つこと。それによって今の仕事を続けられた。

あるいはすぐに仕事が見つかった。職探しに苦労しなかったと、何人かが語っていた。

**進** 学と職業選択についての質問には、親の希望という方もいたが、結婚・出産（ライフイベント）を考えたとき、一生続けられる、経済的にも安定している職業を選んだ、という方もいた。出産を機に退職して、10年専業主婦を経験したという方もいた。子供が小さい時は、社会と離れてしまったようで辛かったようだ。



向（蛭町）多美子さん  
弁護士

証券会社勤務の方は、出産しても会社を辞めるという選択肢



山内（市川）直子さん  
証券会社勤務

は無かったようだ。育休を取る人がまだ少なかった時代、出産後職場復帰して子供が1歳までは、労働時間が1時間短縮出来たが、1歳を過ぎるとフルで働き、その頃は1分刻みの生活スケジュールだった、とおっしゃっていた。

**大** 手民間会社で研究員だったが、いくつかのプロジェクトをこなしていくうちに、技術を分かっている人が弁護士になればいいのに……という思いが芽生え、そのころ法科大学院のことを知り、自分が弁護士になるという夢を持ちそれを叶えてしまった方もいた。

(表面より続く)

5人の方の、自分が女だからと甘えない、強さと行動力には感心してしまった。5人とも既婚者であるが、旦那様や家族・職場の方々の理解もあってのことだったのだろう。彼女たちの様な女性が、



秋元 (角田) 裕子さん  
歯科医師

これから社会でリーダーとなって活躍する機会が増えれば、自ずと「女性が働きやすい社会」になっていくことだろう。

今や共働きはあたりまえ・・・  
そういったなかでも、それぞれが自分の仕事に誇りを持ち、これまでの人生に悔いが無いような自信に満ちた彼女たちの笑顔は、とても素敵だった。

司会を立ててスムーズに進行したが、司会を立てずに、彼女たちが女であったからこそその苦労とか、それを克服するためのこれからの課題などについて、お互いのディスカッションを展開しても良かったのかも。



芳賀 (小野瀬) 厚子さん  
医師

また、専業主婦や芸術家・教師のような幅広い職業の方々にも登場してもらうのも面白かったかもしれない。

(広報委員 森田真理子(昭56卒)記)

## 講座兼茶話会へのお誘い

～水戸一女子会からのお知らせ～

これまでの活動

平成24年4月に水戸一女子会で第1回の食事会を企画し、その後3回、計4回ほど食事会を開催しました。5回目の企画として、平成26年11月の会員の集い終了後に「水戸一女子会2次会」の場を設定。

第6回企画として、平成27年4月25日(土)の「アロマオイルでエイジングケア」(講座兼茶話会)を江山閣会場にて企画。

同窓会は横のつながりだけでなく縦のつながりによって広がっています。男性は職場等で縦の関係を作りやすいと思いますが、女性同士の職場における縦の広がりや、まだまだ希少です。でも、水戸一高卒業生は、女性・男性を問わず、「ななめの関係」を作りやすい気風を持っています。

**水戸一女子会は卒年の横のつながりだけでなく、女性会員相互の「ななめの関係」を広げたいと思っています。**

これからもいろいろな企画を提案していきますので、時間が合う時に、一度ご参加ください。企画は知道会ホームページに掲載しています。

<http://www.chidokai.jp>